

IV-② 地域の校長とミドルリーダーを招いての研究授業・討議

坂出市、綾歌郡の公立小学校のすべての校長と希望するミドルリーダー(将来ミドルリーダーとなる若年教員も含む)を本校に招いて、研究理論に基づく、授業と討議を行い、公立校からの意見をそれぞれの立場からいただいている(年に1回、坂出・綾歌地区の校長研修会に位置づいている)。

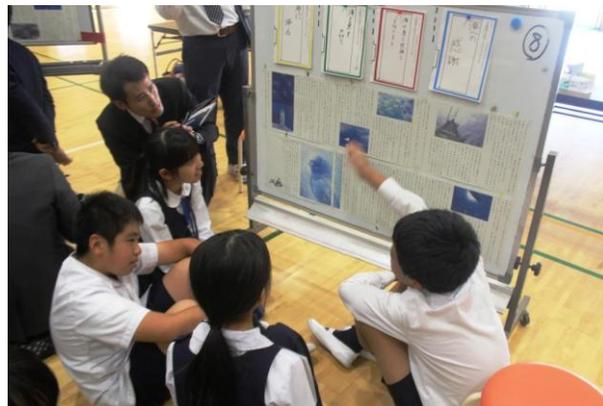
校長先生方には、授業・討議を俯瞰的に見ていただき、「教科の本質からの授業に関する意見」「自校の課題や公立校の実態を踏まえた附属研究への意見」「若手育成の観点から附属の討議等研修機能に関する意見」など幅広くいただいている。

ミドルリーダーの先生方には、実際に附属型討議の中に入れていただき、成果と課題及び代案を共有しながら取り入れられそうなところや参考になることなどの意見をいただいている。

また、附属坂出中学校の同教科の教員にも参加していただき、小中一貫教育の視点から、教科の見方考え方を活かした指導方法や話し合いの仕方などの意見を交流している。



①本校国語科教員の授業公開(学習プランを確認)



②質問が飛び交うグループでの座談会



③全体での意見交流



④授業者に質問する参会者



⑤意見を述べる公立校のミドルリーダー



⑥校長先生方には討議を俯瞰的に観ていただく

公立校のミドルリーダーの声(一部)

- ・ グループの座談会では子供たちが自分の考えをもち、根拠をもって話ができている。友達の質問に対しても付箋紙の叙述を元に答えることができている。このような学習形態や指導の仕方、集団づくりなど学びたいことがたくさんあった。自分のクラスでもこのような子供が育つようにがんばりたい。
- ・ 自分の学校でも効果的な振り返りのさせ方に取り組んでいる。今日は、まず学んだことを振り返り、それから、学び方について振り返っていた。2段階の振り返りは、観点が明確になっていいなあと思った。自校に帰って、先生方に紹介したい。
- ・ グループでの座談会は子供にとってどれだけ必要感があつたのか、また、座談会の前後でメッセージが変わらない子供もいたがどのような理由で変わらなかったのか参観して見えなかったので教えてほしい。

附属坂出中学校国語科教員の声(一部)

- ・ 本時の座談会では、複数の叙述と自分のメッセージをつなげて話し合われていた。国語科では、選んだ叙述をどう解釈して自分のメッセージをつくったかを大切にしたい。そこまでの内容の座談会にするにはどうすればよいのか？ 枠組みのモデルを示せば有効なのか？ 質問し合って引き出せるようにすればよいのか？ 中学校では「ものがたり」と読んでいるが、同様の悩みを中学校国語でもしばしば感じることもある。今後も共に考えていきたい。

公立小学校長の声(一部)

<教科の本質からの授業に関する意見>

- ・ 筆者想定のお読みなのか読者想定のお読みなのか明確にすればよい。
- ・ 教科の見方考え方、何を見て何という考え方を活用させようとしているのか伝えればよい。
- ・ 座談会で自分のメッセージに対する根拠が揺らいだとき、国語科としては教材文に戻って考えさせるべき。
- ・ 自分の考えを再考する活動は、ともすれば意欲減となるが、意欲が続いていることはこれまでの指導が活きているということ。国語科として単元を通しての指導や年間を通しての指導や教師の心がけも提案すればよい。

<自校の課題や公立校の実態を踏まえた附属研究への意見>

- ・ 子供一人一人の気質の差が附属小よりはるかに大きく、まさに個々の気質に配慮することが重要となる。どのようにすれば他とかかわりながら学習を進められるのか。どのようにすれば学習意欲が継続するのか。等1時間の授業の流れの中で整理して提示していただければ公立校にとって大いに参考となる。
- ・ 個の発達、気質とメタ認知の研究はまさに教室の困り感に応える研究です。本校でも取り入れます。
- ・ 個に応じたメタ認知を促す働きかけは参考になる。実践研究を積み上げてほしい。
- ・ ユニバーサルデザインの学習環境とメタ認知が繋がっているのが素晴らしい。

<若手育成の観点から附属の討議等、研修機能に関する意見>

- ・ 討議において授業の様相から原因と改善点が明らかにされていったことに感動している。この討議を本校でも取り入れたい。
- ・ 個の見とりシートをもとに子供の様相(事実)で語る討議や教師の姿勢が素晴らしい。取り入れたい。
- ・ 本校ではなかなか討議が活性化しない。見とりシート等を取り入れたい。本校の教員にもこの討議を見せてほしい。レベルの高い討議であった。
- ・ 授業のゴールを子供の姿で問うているのが新鮮であり取り入れたい。
- ・ 付箋活用の討議は全員参加の討議になる。附属の先生の意見が討議を深めており、このような討議に参加できた教諭はたくさんのおみやげを持って帰ることができたと思う。日常の研究授業・討議を続けてほしい。
- ・ 参加した本校の研究主任にとってよい学びの場になった。
- ・ 付箋紙をグルーピングしたり矢印でつないだりしてビジュアル化すれば、さらに議論の筋道が捉えやすくなる。
- ・ 公立校では、なかなか研修に出せないのが現状。そのような中、研究会を2年スパンにして日常の研究授業・討議を1年間通してすべて公開し、参加しやすくしているのは賛成。また、勤務時間外のワークショップや土曜授業の企画も、公立校にはありがたいこと。附属の研修機能を校長から教員にしっかり呼びかけたい。

令和元年9月11日

各小学校長 殿

香川大学教育学部附属坂出小学校
校長 坂井 聡

令和元年度 坂出・綾歌小学校長会研修について（ご案内）

初秋の候、校長先生方におかれましては、ますますご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、下記の日程で標記の会を開催し、本校の研究についてご意見、ご指導を賜りたいと思っております。ご多用とは存じますが、ぜひ出席下さいますようお願い申し上げます。なお、よろしければ現教主任をはじめ他の先生方も一緒に参加いただければ幸いです。

記

1 日 時

令和元年10月28日（月） 13:50～16:30

2 場 所

香川大学教育学部附属坂出小学校
（控え室として作法室を用意しています。）

3 日 程

(1) 授業参観 13:50～14:35 場所（体育館）

教 科 国語科

授業者 西吉亮二

学 年 6年西組

単 元 「物語から伝わってくるメッセージについて語り合おう
～『海のいのち』～」

(2) 全体提案 14:50～15:05 場所（体育館）

提案者 研究部長 中家啓吾 研究副部長 尼子智悠 竹森大介

(3) 研究討議 15:05～16:25（体育館）

テーマと本年度研究の重点

互いに磨き合い、学び続ける子供の育成（2年次）

一個の発達に応じ、メタ認知を促す授業づくりー

- 学習活動を三つの場面に分けて捉え、個の発達や学習内容を考慮しながら、明確化と習慣化の視点でメタ認知的活動を促す働きかけを行う。
- 授業ごとに設定した「互いに磨き合い、学び続ける姿」の具体から資質・能力が高まっているかどうかを評価するとともに、授業の各場面においてメタ認知的活動が行われているか検証していく。

4 その他

※ 提案要項は事前に、指導案は当日お渡しいたします。

※ 当日は、運動場に駐車して下さい。